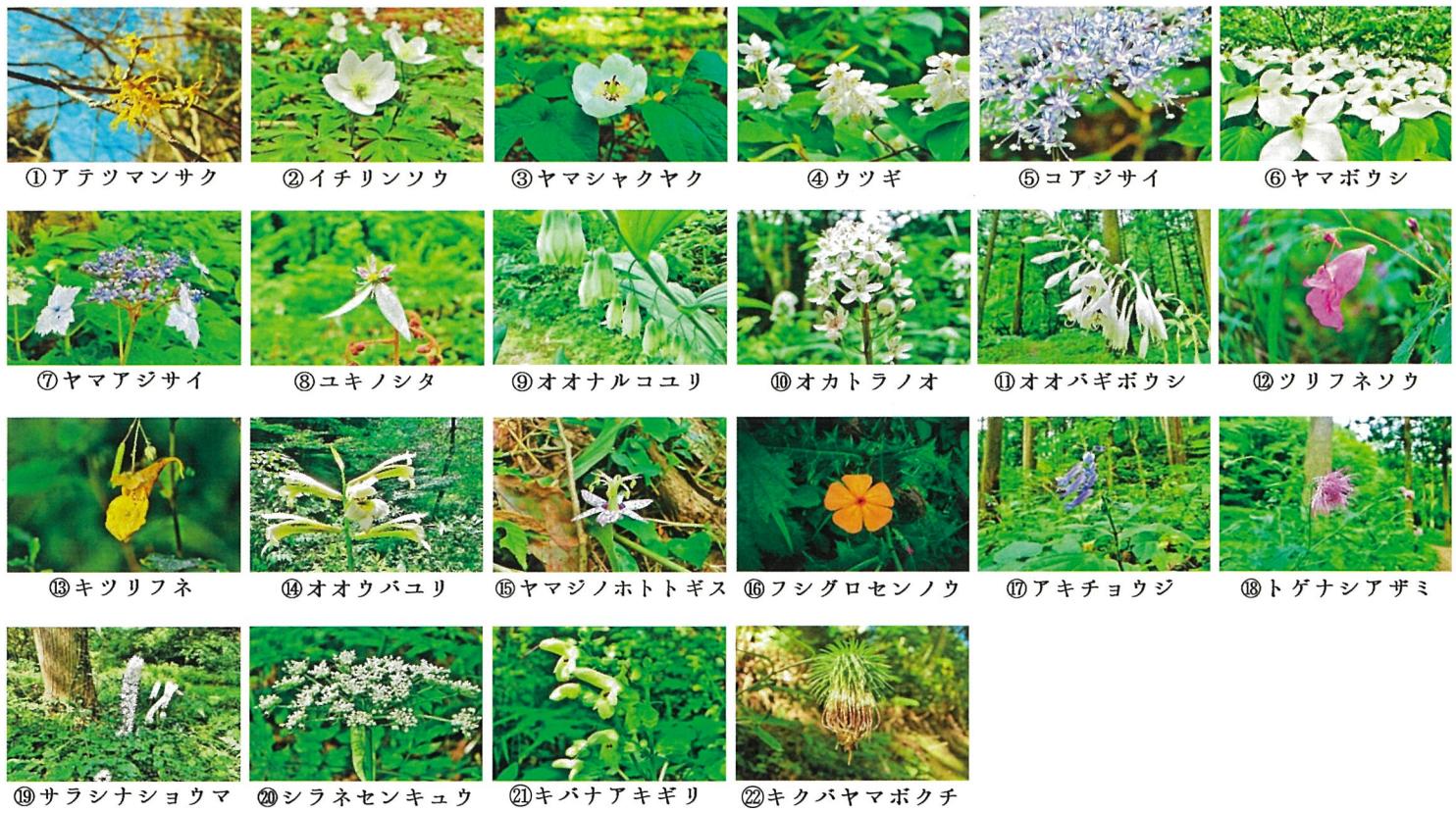


# 飯南町ふるさとの森



- 専門資格を持ったガイドが飯南町の自然をご案内♪ 【エビオネイチャーガイドオフィス】
- 心も身体もリフレッシュ♪ 【飯南町森林セラピー®】
- 飯南町観光情報♪ 【さとやまにあ】

④動植物の採取は禁止されています！自然是大切に。

製作：



飯南町観光協会  
IINAN Tourism Association

島根県飯石郡飯南町下赤名880-3 TEL : 0854-76-9050

番号	種名	花期	写真	特徴
①	アテツマンサク	3月		黄色い花を咲かせて、春の訪れを知らせます。花はおもしろい形で4枚のリボン状の花弁がよれて広がっています。アテツは最初に発見された岡山県阿哲地方を意味しており、マンサクは最初に咲くので、「まず咲く」であるともいわれています。
②	イチリンソウ	4月		葉は菊のようぎざぎざしており、中央から花柄が伸びてその先に一輪の花を咲かせます。花弁がなく白いガク片が花弁状に5~6枚あります。初夏には地上部が枯れて長い季節を地下部のみで過ごします。代表的な春植物です。
③	ヤマシャクヤク	5月		花は5cm前後の大輪で、白い花弁がとてもよく目立ち美しいのですが、2~3日で散る短命花でもあります。花後に結実すると果実が次第に大きくなり、ザクロのように中の種子がはじけます。この種子は完熟のものは黒く、不稔のものは赤く色づきます。
④	ウツギ	6月		名前の由来は枝の芯が空洞なので「空ろな木=空木」、もしくは旧暦の4月(卯月)頃に花を咲かせるので「卯の花(ウノハナ)」ともよばれているという説があります。
⑤	コアジサイ	6月		ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木で日本固有種です。名の由来は、装飾花を持たない小型の花序を付けるアジサイである事から。アジサイは古語で集真藍(あづさあい)であって、青い小さな花が集まって咲くからと言われています。
⑥	ヤマボウシ	6月		花の本体は中心にある黄緑色をした球形の部分です。ヤマボウシの名前の由来はこの4枚の白い総苞を、頭巾をかぶった法師に見立てて名付けられました。果実は熟すとほんのり甘く柔らかく主にジャムとして食用にも使われ親しまれています。
⑦	ヤマアジサイ	6月~7月		花は6月から7月にかけて咲き、周辺に4枚の花弁状の萼を持つ装飾花が、中心部に多数の普通花があります。花の色は薄く紅色を帯びるものから白色、紫色を帯びるもの、青色のものなど多様です。
⑧	ユキノシタ	6月~7月		里山の湿った石垣に群生する多年草です。葉は天ぷらにして食べられます。また葉の生汁を傷口に塗ったり、葉を火であぶって火傷に貼ると効き目があります。地元では金銀草(きんぎんそう)とよび、漢方では虎草(こじそう)といいます。
⑨	オオナルコユリ (大鳴子百合)	6月~7月		花は鈴なりに咲く様子がとてもかわいらしく可憐です。この下向きに垂れ下がる花の様子を鳥や獣を追い払う鳴子に見立てたことが名前の由来といわれています。秋には熟して青黒い実をつけます。
⑩	オカトラノオ	7月~8月		オカトラノオの葉は茎に短い毛があり光沢はありません。白い小花を密に付けて房状の花穂をつくります。花穂は直立せずにくにやりと曲がった姿になり、その様子を虎の尻尾に見立てたことが名前の由来です。
⑪	オオバギボウシ (大葉擬宝珠)	7月~8月		名前の由来は、花の蕾の時の形が「擬宝珠」に似ていて、この仲間(ギボウシ属)では、際だって葉が大きいので「大葉」です。※「擬宝珠(ぎぼうし)」は、橋の欄干(らんかん)などの上端につける装飾具のことです。 
⑫	ツリフネソウ	7月~9月		名前の由来は、細い柄にぶらさがっている花の姿を帆を上げた釣り船に見立てたとも、活け花で使う釣船型の花器に見立てたものだともいわれています。赤名湿地性植物群落でも群生しています。
⑬	キツリフネ	7月~9月		ツリフネソウに比べると個体数が少なく、目にすることは珍しいです。
⑭	オオウバユリ	8月		花が終わると葉も枯れて無くなることから「歯(葉)がない」にかけて姥百合と名付けられたという。ユリの仲間では葉、茎、花とともに最大級で、薄黄、あるいは薄緑がかかった白い花を咲かせます。
⑮	ヤマジノホトトギス	8月~9月		紫色の斑紋がホトトギス(小鳥)の胸の斑紋と似ていることから付けられたとされています。ヤマジノは「山路の」で、山路でよく出会うことから。花びらは上を向いたままで横に開くことはありません。
⑯	フシグロセンノウ (節黒仙翁)	8月~10月		うす暗い緑の中に花の色だけが際立って目を見はらせます。朱赤色の大きな花を茎の先端につけます。茎の節の部分が少しばかり黒色がかっていることが名の由来で、「仙翁」は京都の嵯峨の仙翁寺(せんのうじ)というところが作出了したところから命名。
⑰	アキチョウジ (秋丁字)	8月~10月		シソ科の多年草です。秋丁字の名は、秋に花が咲き丁字形の花であるからとされます。花は青紫色で、花の筒の部分がいちじるしく長いので良く目立ち、枝の先に一方向に向いてまばらにつきます。
⑱	トゲナシアザミ	8月~10月		トゲナシと言いますが、葉には棘があり素手で触ると痛いです。花の基部の釣り鐘型の総苞の刺が短く先端が反っていないからです。反っているものでは、ヨシノアザミがあります。トゲナシアザミ、ヨシノアザミはナンブアザミの変種になっています。
⑲	サラシナショウマ	9月~10月		穂の長い白い花はよく目立ち、秋の山歩きで必ず目にする植物です。薬用植物で、根茎を「升麻(しょうま)」といいます。名は若芽を水にさらして食用にしたことからサラシナです。
⑳	シラネセンキュウ (白根川芎)	9月~10月		名の由来は、中国原産の生薬川芎(せんきゅう)に葉が似ていて、日光白根山で見つかったことから白根川芎の名になったといいます。
㉑	キバナアキギリ	9月~10月		シソ科アキギリ属の花で、その形からも分かるように学名をサルビア・ニッポニカと呼ばれる日本のサルビアです。和名の由来は、秋に咲いて花の色が黄色く、葉の形が桐(キリ)に似ていることからきています。
㉒	キクバヤマボクチ	10月~11月		昔は火口(ほくち)※火打石で火をおこすとき最初に火を燃上がらせる)に使われ、下部の葉が裂け菊の葉に似ているので「菊葉山火口」とついたといわれています。ヨモギと同じ方法でモチに入れて食べれます。「ほうこう餅」と呼ばれています。